

# 広島県立美術館

学校のための美術館活用マニュアル



◀ 県立美術館ガイド  
ミューズちゃん

広島大学大学院教育学研究科 / 広島県立美術館



## 目次

はじめに	1
<b>1. 広島県立美術館の教育普及活動</b>	
1-1 概要	2
1-2 今すぐ活用できる教育プログラムの紹介	3
<b>2. 美術館と学校との連携による学習開発</b>	
2-1 美術館などの利用や連携を通して育むべき資質や能力と学習開発の指針	4
2-2 小学校低学年	6
2-3 小学校中学年	11
2-4 小学校高学年	17
2-5 中学校	21
<b>3. 美術鑑賞ワークシート</b>	
3-1 美術館訪問のマナー	27
3-2 美術鑑賞ワークシート	28

### 協力者一覧



# はじめに

広島県立美術館と国立大学法人広島大学大学院教育学研究科は、広島県の美術文化の振興並びに学校教育及び生涯学習の発展に向けた協力を目的として、平成25年に連携協定を結びました。近年、連携を通して、子どものための美術鑑賞の学習開発や所蔵作品に関する教材開発を進めて参りました。

このたびは、「学校のための美術館活用マニュアル」と題して、広島県内の小・中学校で美術教育の授業づくりを研究されている先生方に、平成29年告示の学習指導要領で重視されている「主体的・対話的で深い学び」を実現するために開発していただいたモデル授業を紹介いたします。いずれも、広島県立美術館の所蔵作品を活用したオリジナルの開発であり、授業の具体的なイメージが伝わることで、学校の先生方の創造的な授業づくりの一助となればと願っております。合わせて、美術館や教室での鑑賞を深めるワークシートなども紹介いたしました。学校が美術館を活用するに際して、知っておくと便利な美術館が提供している教育プログラムの紹介や、美術館で守っていただきたいマナーなども盛り込んでおります。

本冊子のご活用を通して、子どもたちが美術と出会う楽しさを感じ、美術館が学校教育の場でさらに活かされれば幸いに存じます。

# 広島県立美術館の教育活動

## 1 概要

広島県立美術館は、2019年3月現在、約5,000点の美術作品を所蔵しています。これらは、「広島県ゆかりの美術」、「1920～30年代（戦間期）の美術」、「日本とアジアの工芸」の3本の柱を中心として収集したもので、《巖島図》、サルバドール・ダリ《ヴィーナスの夢》、《伊万里柿右衛門様式色絵馬》など、順次、所蔵作品展にて公開しています。また、所蔵作品展のほかにも、特別展では多彩な美術作品を紹介する展覧会を開催しています。

さて、当館における教育活動は、これら所蔵作品や展覧会による調査研究・展示公開に始まるため、当初、活動内容は説示型の講演会や体験型のワークショップが主流となり、活動の場も館内が中心でした。しかし近年、学校教育における美術鑑賞への関心が高まるなか、当館の教育活動の在り方にも変化が求められるようになっていきます。具体的には、活動内容は説示型や体験型だけでなく、対話型も重視するように変化しつつあり、活動の場はより多くの接点を求めて館外（＝アウトリーチ）にも広がっています。

このような教育活動の在り方に大きな転換をもたらしたのは、平成14（2002）年度から学校教育に本格導入された「総合的な学習の時間」でした。これに合わせて、当館では「移動美術館（広島県ネットワーク美術館展）」（平成25年度まで）や「美術作品鑑賞授業」（平成30年度まで）を実施しました。その後も館外との連携を頼りとして、広島大学教育学部と共同開発した『アートカード』（平成23年度）や『アート・トーク』（平成24年度）を導入・紹介するなど、社会の要請に合わせて深化・多様化する教育活動への対応を図っています。

## 2 今すぐ活用できる教育プログラムの紹介（広島県立美術館 <https://www.hpam.jp/>）

### （1）学校で

#### ⇒ 出張講座（要申込）

HPに掲載するプログラムに基づき、美術館スタッフが出張講座を実施します。講座内容等は、ご要望に応じて調整可能です。希望する場合は、実施1ヶ月前頃までに申し込んでください。

#### ⇒ 鑑賞補助教材（要申込）

広島大学教育学部と共同開発した、美術鑑賞への興味・関心を高める学習支援キット『アートカード』や『アート・トーク』、作品の画像データなどの貸出を行いません。本物の作品がなくとも、広島県立美術館の所蔵作品に親しみつつ、楽しく鑑賞学習に取り組みます。なお、送料が発生する場合はご負担ください。

#### ⇒ 日本伝統工芸展のこども鑑賞コース（要申込・選定制）

例年、冬季に広島県立美術館で開催する日本伝統工芸展にあわせて実施します。伝統工芸品を生み出す第一線で活躍する工芸作家（日本工芸会正会員）を学校に派遣し、講話や作品鑑賞を行う出張講座を中心とするプログラムで、県内の小学校及び特別支援学校小学部の児童生徒が対象です。夏休み前後に募集を行いますので、詳細はそちらをご確認ください。

### （2）美術館で

#### ⇒ 団体利用（入館料の減免）

小・中・高等学校又はこれらに準じる学校の児童、生徒が、学校教育活動の一環として団体利用する場合、利用申込書を事前に提出していただくと、所蔵作品展又は特別展について、引率者の入館料を無料とします。希望する場合は、来館1週間前までに申し込んでください。

- ・ 自由見学コース
- ・ 展示案内コース（友の会ボランティア・ガイド又は学芸員による）

#### ⇒ ワークシート

美術鑑賞をサポートするために、作品や作家の解説、鑑賞のヒント、クイズ、地図など、小学生高学年～大人を対象としたさまざまな視点で作っています。2019年3月現在、300種以上を作成し、展示室で無料配布しています。

#### ⇒ 所蔵作品展ギャラリーガイド（友の会ボランティア・ガイドによる／申込は不要）

下記の日時で案内しています。ただし、年始など臨時休止する場合があります。

- ・ 平日 14:00～
- ・ 土日祝 11:00～／14:00～

#### ⇒ 講演会、美術講座、ワークショップ等（随時）

所蔵作品展ギャラリーガイドのほかにも、所蔵作品展や特別展に合わせた各種イベントを実施しています。詳しくは広島県立美術館の展覧会チラシ、HP、SNS等で確認してください。

## 美術館などの利用や連携を通して育むべき資質や能力と授業づくりの指針

平成 29 年告示の小学校学習指導要領、並びに、中学校学習指導要領においては、学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を、社会との連携及び協働を通して図っていく「社会に開かれた教育課程の実現」が目指されており、「地域の図書館や博物館、美術館、劇場、音楽堂等の施設の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動を充実すること」が示されています。社会に開かれた教育課程を実現していくために、図画工作・美術科では、前の学習指導要領から引き続き、美術館や博物館などの利用や連携を通して、各学年の「鑑賞」の指導にあたる必要があるとされています。

本冊子に掲載している小学校低中高学年、中学校の授業実践は、新しい学習指導要領に対応し、学習指導の指針である「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、以下の3点を配慮しています。

### 1. 「美術の専門分野に核心的で重要なアイデアやプロセス」を明確化した学習指導

「主体的・対話的で深い学び」が目指すところは、児童・生徒が、教室で学んだことを新しい状況において創造的に活用できる転移能力や心の習慣の形成であり、これは、美術の専門家が扱う問題の中核となるアイデアやプロセスの深い理解を通して獲得されることが心理学などの研究から明らかにされています。これを踏まえ、本冊子の実践授業は、図 1 に示すような手順により、児童・生徒の経験と専門家が扱うアイデアやプロセスとを一筋につなげる学習内容と方法をデザインし、学校教育を通して育成すべき資質・能力の3本柱である「知識及び技能の習得」、「思考力、判断力、表現力等の育成」、「学びに向かう力、人間性等の涵養」に沿って学習活動のねらいを定めています。

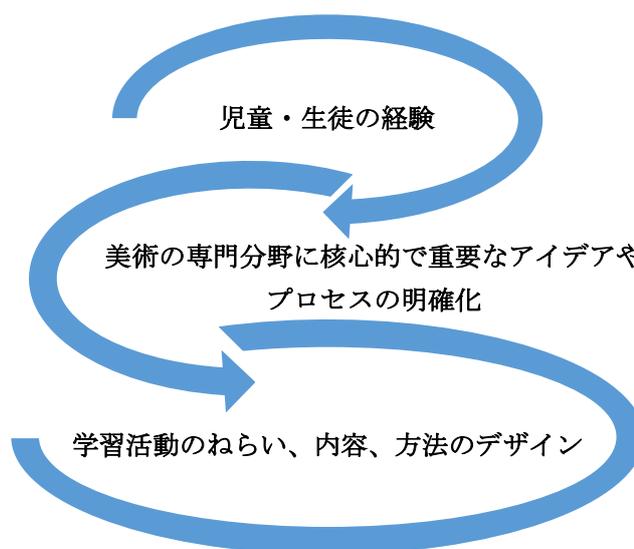


図 1. 学習指導の設計方法

## 2. 美術館などの利用や連携による学習の系統性・発展性を考慮した学習指導

学校教育において、美術館などの利用や連携を進める上で、課題となるのは、学習活動が単発的になりがちであり、学校教育を一貫した累積的な学習指導になり得ていないことが挙げられます。そこで、美術館という場でしか得られない活動内容を考慮しつつ、以下の表1に示された学習段階を設定して授業実践は開発されています。

表1. 小中学校における美術館などの利用や連携による学習指導の段階

段階	学習指導の指針
小学校低学年	地域の美術館などにある作品の形や色などの面白さや楽しさ、表し方などについて、感じ取ったり考えたりすることを通して、自分の見方や感じ方を広げるとともに、地域の美術館などで実物の作品をみることに興味を持つ。
小学校中学年	地域の美術館などにある作品の形や色、組み合わせなどのよさや面白さ、製作過程、表し方などについて、感じ取ったり考えたりすることを通して、自分の見方や感じ方を広げ、作品鑑賞に対する意欲を形成する。
小学校高学年	美術館などでの展示方法や作品の情報提示について理解し、作者の心情や表現の意図、形や色、組み合わせなどの造形や表し方の特徴などについて、感じ取ったり考えたりすることを通して、自分の見方や感じ方を広げ、美術について探究する意欲を高める。
中学校	社会における美術館などの役割とともに、美術館などにおける展示企画の方法について理解し、作品の造形的なよさや美しさ、作者の心情、表現の意図と工夫などについて考えることを通して、自分の見方や感じ方を広げ、美術について探究する意欲を高める。

## 3. 教科等横断的な視点に立った学習指導

今日の学校教育が目指す教室で学んだことを新しい状況において創造的に活用できる転移能力や心の習慣の形成とかかわる「知識及び技能の習得」、「思考力、判断力、表現力等の育成」、「学びに向かう力、人間性等の涵養」は、教科等横断的な視点に立った学習指導によって効果を上げることが期待されています。児童・生徒が複眼的な眼で美術を理解し、児童・生徒自身の生活に根をおろす深い学びの実現を目指して、授業実践の開発では、図画工作・美術科で行う美術鑑賞の活動に主軸を置きながら、他教科等の学習内容や方法と横断的に関連付けることを配慮しています。

## 題材名「なりきり ふうじんらいじん」

重充 雅美

対象学年：小学校低学年

対象作品名：風神雷神（作家名：橋本雅邦）

### 1 題材のねらい

小学校低学年の児童にとっては、疎遠である日本画を鑑賞する楽しさを味わわせることをねらいとしている。児童が絵の人物になり切ってセリフを考えたり、会話を想像したりすることを通して、自らの感性を働かせながら主体的に鑑賞する活動を展開する。

### 2 学習指導計画（全1時間）

絵の人物がどんなことを言っているのか、どんな顔をしているのかを想像し、感じたことを話し合う。

### 3 評価の観点

- ・人物の特徴や周りの様子を捉えながら、自分の感じ方を生かして人物の表情をつくっている。（知識・技能）
- ・作品を鑑賞する活動を通して、線や形などの造形的な面白さや、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりしている。（思考力・判断力・表現力）
- ・楽しく作品を見る活動に取り組み、主体的に作品鑑賞を深めている。（学びに向かう力）

### 4 他教科等の学習とのつながり

〔国語科とのつながり〕

話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。（互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。）

### 5 美術の専門分野に核心的で重要なアイデアやプロセス

作品に描かれた人物や周りの様子から、作者が表したかったことを想像することができる。

- ・人物の周りの様子から、人物の置かれた状況を想像する。
- ・どんな音が聞こえてきそうか想像して、人物の状況を感じ取る。
- ・人物のセリフや会話を想像して、友達と伝え合う。

## 6 本題材（本時）の目標

絵から感じたことを話したり、友人の話を聞いたりする中で、線や色や表情などから表し方の面白さに気づく。

## 7 準備物

『風神雷神』の拡大コピー、『風神雷神』を白抜きにした拡大コピー、風神雷神顔パネル、ワークシート『風神雷神』コピー（手元用 2人に1枚）

	子どもの活動	教師の支援・指導・評価のポイント
導入	<p>○作品と出会う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>風神雷神図（風神雷神は白いシルエット）を見て、誰がなにをしているのか想像する。</li> </ul>	<p>○「風神と雷神が持っているもの」や、「周りに何が見えるのか」、「どんな音が聞こえてきそうか」を問い、絵を見る視点をもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>風神雷神は白いシルエットにする。</li> <li>手元には、2人に1枚コピーを配る。</li> <li>思ったことを自由に発表させ、共感し、どうしてそのように思ったのか理由も言わせるようにする。</li> </ul>
展開	<p>○この2人が、神様であることを知り、何を話しているのか想像する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>どんなことを言っているのか、どんなかおをしているのか、そうぞうしよう。</p> </div> <p>○ワークシートに風神雷神の言っていることを想像して書く。</p> <p>○友達の考えたのと自分の考えを比べて話し合う。（ペアトーク→全体交流）</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>○「風神雷神」（白抜きではないもの）を見て、気付いたことや感じたことを発表する。</p>	<p>○どちらか一方の神様を選ばせ、言っている事だけではなく、神様の名前も自分で考えさせる。</p> <p>○言っていることが想像しやすいようにワークシートの白抜きの人物の顔をかいてもよい。</p> <p>○全体の交流では、顔パネルに顔をはめて発表させる。（顔だけを描いている場合は、教材提示装置を使ってテレビ画面に示して、発表の助けにする。）</p> <p>○思ったことを自由に発表させ、自分たちが想像したことと違うことに気付かせる。</p> <p>○作者の思いに気づかせるため、なぜ作者の橋本雅邦は、このような顔にしたのかを問う。</p>
振り返り	<p>○学芸員さんの話を聞く。（作者はなぜこのような顔にしたのかを含めて）</p>	<p>○学芸員さんの話を聞くことで、作者の思いに気づかせる。（直接話を聞くことが難しければビデオ等）</p>

8 ワークシート

かみさま



ずこう ワークシート

1年 くみ

名まえ

( )

なにをはなしているのでしょうか。



A large, empty rounded rectangular box with a dotted line running horizontally across its center, intended for a student's answer.

ずこう ワークシート

かみさま

1ねん くみ

名まえ  
( )

なにをはなしているのでしょうか。



.....

## 作家作品解説



『日本美術院百年史』一卷上  
(日本美術院, 1989年)より転載

作者名：橋本雅邦  
作品名：《風神雷神》  
制作年：明治28年／1895年  
材質・技法：絹本彩色  
サイズ：各138.0×52.0  
所蔵：広島県立美術館



風神雷神図といえば俵屋宗達の国宝の屏風(京都・健仁寺蔵)が有名だが、橋本雅邦による本作品は、宗達のそれとは二神の配置が逆で、その姿態も異なっている。右の雷神は渦巻型に意匠化された雷雲に乗り太鼓のばちをふりあげ、恐ろしい形相で下界を見下ろしている。一方、左の風神は、やや神妙な面持ちで口許を結び、抱え持った風袋から勢いよく風を吹き下ろしている。狩野派の描法だけでなく同時代の新しい表現を貪欲に自身の創作のエネルギーへと変えた雅邦らしく、本作も画家の独創的な創意工夫が垣間見られる画面に仕上がっている。

橋本雅邦(1835-1908)は、江戸木挽町(現在の東京都中央区)の生まれ。1884年、狩野芳崖らとともにフェノロサの鑑画会に参加。1889年、開校した東京美術学校(現・東京藝術大学)にて狩野派の教授となる。しかし、1898年の東京美術学校騒動に際し同校を辞職、岡倉天心らとともに日本美術院を創設する。横山大観、菱田春草、川合玉堂ら幾多の俊秀を育て、近代日本画の礎を築いた。

## 題材名「絵から想像を広げよう」

山口 祐司

対象学年：小学校中学年

対象作品名：南薫造の作品13点

### 1 題材のねらい

広島画家である南薫造の作品を鑑賞する活動を通して、形や色などの感じを基に自分のイメージをもち、造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げることがをねらいとする。

### 2 学習指導計画（全2時間）

第一次 よく見て、感じたことを話そう。友達の話をよく聞いて、楽しもう。・・・1時間

第二次 絵から想像を広げ、感じたことを伝え合おう。・・・1時間（本時）

### 3 評価の観点

- ・自分の感覚や行為を通して、広島画家の作品の形や色などの感じが分かる。（知識・技能）
- ・広島画家の作品を鑑賞する活動を通して、形や色などの感じを基に自分のイメージをもち、造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げることができる。（思考力・判断力・表現力）
- ・身近にある広島画家の作品を進んで鑑賞する活動に取り組み、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。（学びに向かう力）

### 4 他教科等の学習とのつながり

〔社会科とのつながり〕

4年生社会科単元「わたしたちの県の様子」で、児童は広島県の特色や地域の人々のくらしの様子などを学習する。晩年は広島に暮らし、郷土を描き続けた南薫造の作品を鑑賞することで、社会科の学習との関連を図る。

〔国語科とのつながり〕

感じたことを表現するために、様々な言葉を選択し、短い文章にまとめる。

### 5 美術の専門分野に核心的で重要なアイデアやプロセス

作品から想像を広げるために視点を与える。

【想像を広げるための視点】

- ・ どんな感じがするか
- ・ いつ、どこで、誰が、何を
- ・ 感じられる光の性質
- ・ 聞こえてきそうな音
- ・ どんなにおいがしてきそうか
- ・ 絵の周りには何がそうか

## 6 本題材の目標

身近な美術作品から思ったこと、考えたことなどを話したり聞いたり話し合ったり、言葉で整理するなどしながら、造形的なよさや面白さなどを感じ取っている。

## 7 準備物

南薫造の作品（アートカード）、ワークシート

	子どもの活動	教師の支援・指導・評価のポイント
導 入	<p>○本時の目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・既習事項を振り返る。</p> 	<p>○形、色、感じの3つで作品を見てきたことを思い出させる。 (既習のふり返し)</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>絵から想像を広げ、感じたことを伝え合おう。</p> </div>	<p>○アートカードにない絵で学習の進め方を確認する。</p>
展 開	<p>○想像を広げていく。 ・鑑賞する作品を1点選ぶ。 ・作品に表現されている形や色、感じを捉える。 ・吹き出しを使ってワークシートに記入し、想像を広げる。</p>  	<p>○12点の作品から、鑑賞する作品を1点選ばせておくことにより、主体性を高める。</p> <p>○作品から想像を広げる方法を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな感じがするか</li> <li>・いつ、どこで、誰が、何を</li> <li>・聞こえてきそうな音</li> <li>・どんなにおいがしてきそうか</li> <li>・絵の周りには何がありそうか</li> </ul> <p>○絵のどこからそう考えたのか理由を書かせる。(赤で囲む)</p> <p>○書くことが苦手な児童や枠があると不安になる児童のために、吹き出しの数と大きさを自由に変えられる、書きやすいワークシートを用意する。</p> <p>○形・色・感じを基に思いを聞き、考えを引き出していく。</p>
	<p>○想像した内容を伝え合う。</p> 	<p>○作品ごとのグループをつくり、自分が絵から想像したことと、友人が絵から想像したことを比較できるようにする。</p> <p>○理由を伝え合い、絵のどこから考えたのかを説明することで、形、色、感じを基に考えさせる。</p> <p>○ワークシートに書いたことを短くても伝えるよう促す。</p>
振 り 返 り	<p>○本時の学習の振り返りをする。</p> 	<p>○広島県立美術館の学芸員から作者と作品の紹介をする。</p>

## 8 ワークシート

絵から想像を広げよう

名前（ ）

めあて よく見て、感じたことを話そう。友達の話をよく聞いて、楽しもう。

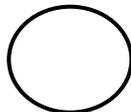
活動① 仲間分けゲーム

活動② どっちも〇〇ゲーム

	共通点（にているところ）
③ と ⑫	
⑧ と ⑪	
と	

ふり返し


12枚の絵の中から1枚を選ぼう！



絵から想像を広げよう 名前

( )

めあて 絵から想像を広げ、感じたことを伝え合おう。



ふり返し


## 南薫造のアートカードセット

### 作品の選定基準

1. 作品の変化が分かるように異なる年代から選ぶこと
2. 児童が想像を上げやすい作品を選ぶこと
3. 色彩が明るく、児童の興味を引く作品を選ぶこと

本時で使用  
した作品



《白壁の農家》1908年 油彩・画布 75.5×101.0



《農夫》1915年  
油彩・画布  
116.7×80.3



《坐せる女》1908年  
油彩・画布  
112.1×83.3



《ピアノ》1921年  
油彩・画布  
103.0×83.1



《小鳥の死》1910年  
水彩・紙  
35.0×20.6



《うしろむき》1909年  
水彩・紙  
53.0×36.4



《ハンモック》1924年  
水彩・紙  
24.0×32.5



《羊飼い》1909年  
水彩・紙  
30.0×45.5



《ダージリン》1916年  
水彩・紙  
35.5×25.2



《花》1906年  
油彩・画布  
45.5×60.6



《呉港》1926年頃  
油彩・ボード  
21.8×27.1



《曝書》1946年  
油彩・画布  
65.1×80.3



《牧場》1902年  
水彩・紙  
23.2×32.5

※作品はすべて広島県立美術館蔵

## 作家作品解説



南薫造

1883(明治 16) - 1950(昭和 25)

南薫造は、広島県呉市安浦町の出身。東京美術学校を卒業後、ヨーロッパに学んだ。帰国した明治末期からは、国が主催する展覧会（文展）で受賞を重ね、若くして画壇での地位を確立。光の表現に注目してたどり着いた、明るい色彩を生かした穏和な作風で人気を博し、「日本の印象派」の代表的画家として知られている。

画業初期の代表作である《白壁の農家》や《坐せる女》は、イギリス留学時代の油彩画である。美術学校時代の《花》とともに、まだ色彩は控えめだが、まもなく《農夫》などに見られる明るい色遣いへと次第に変化していくことになる。

留学時代の水彩画である《うしろむき》や《羊飼い》では、色彩の濃淡により遠近感を表現しつつ、水彩の透明感を生かして外国風景をみずみずしく捉えている。学生時代の《牧場》の細かく丁寧なタッチから、滞欧時代を経て、大正期の《ダーズリン》や《ハンモック》へと、時代が進むにつれてタッチは次第に伸びやかで大胆になり、変化に富んだ多彩な表現をもつ作品を生み出していった。

大正時代から東京を拠点に活躍した作者は、終戦前年に郷里に疎開。戦後は、終生好んだ水辺の風景や、家族を描いた《曝書》などを描くとともに、広島の文化復興に貢献したことで知られている。

## 題材名「作品解説づくりにチャレンジ」

中西 紘士

対象学年：小学校高学年

対象作品名：常設展並びに展示された作品解説

### 1 題材のねらい

美術館の展示で使用される作品解説には、作品の造形的な特徴や相手に伝えたいことが書かれている。本題材では、学芸員から作品解説づくりの基礎知識を学び、学んだことを活用して、児童が美術館訪問を通して選んだお気に入り作品の作品解説づくりを行うことを通して、鑑賞力を高めることをねらいとする。

### 2 学習指導計画（全5時間）

第一次 作品解説の書き方を知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間

第二次 お気に入りの作品の作品解説づくりに挑戦しよう・・・・・・・・・・2時間（本時）

第三次 自分たちの作品の作品解説づくりをしよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

### 3 評価の観点

- ・美術館における作品展示で使用される作品解説の役割について理解し、作品解説が作成できる。（知識・技能）
- ・美術館の展示場で選んだお気に入りの作品について、自分の感性を生かしながら作品解説に表現する内容や表現方法を考えることができる。（思考力・判断力・表現力）
- ・作品解説づくりを通して、主体的に作品鑑賞を深めている。（学びに向かう力）

### 4 他教科等の学習とのつながり

〔国語科とのつながり〕

目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理し、制限文字数内にまとめて書く。

〔社会科とのつながり〕

作者が描いた時代における社会的背景などについての知識をもとに作品解説づくりを行う。

〔学校行事とのつながり〕

文化祭での作品展示における作品解説づくりにおいて、美術館の作品の作品解説づくりで習得した知識を活用する。

### 5 美術の専門分野に核心的で重要なアイデアやプロセス

美術館における展示方法は、来館者の美術鑑賞を深めるための一つ的手段として機能している。

【作品解説づくりのポイント】

- ・作品名・作家名・制作年代
- ・作品を形成する素材や技法など
- ・制限がある字数の中で、伝えたいこと、伝えるべきことを明確にすること
- ・伝えるべき相手がどんな人物であるのか、イメージすること
- ・書き終えたあと、作品の鑑賞者になったつもりで読んでみる（納得や共感を得られる文章であることを確認する）

## 6 本題材の目標

美術館の作品解説を比較することを通して、作品解説づくりの際に必要な視点について理解し、その視点をを用いて自分たちの作品の作品解説づくりに生かすことができる。

## 7 準備物

ワークシート、付箋

	子どもの活動	教師の支援・指導・評価のポイント
導入	○美術館の展示作品の作品解説を読み、どのような点に気を付けて文章が書かれているかを知る。	○対象としている人の年齢や作者の背景、その作品に使われている技法などの視点に気づけるように事前に作成された作品解説の中で児童に読ませたい作品解説を複数選択しておく。
展開	<p>○作品解説づくりのポイントを理解する。</p>  <p>○美術館見学において、お気に入りの作品を選び、その作品の特徴や自分が感じた伝えたいことをメモしておく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;">お気に入りの作品の作品解説づくりに挑戦しよう</div> <p>○作品解説に書く内容メモを作成する。</p> <p>○お気に入りの作品の作品解説づくりを行う。</p> <p>○自分たちの作品の作品解説づくりを行う。</p>	<p>○美術館の学芸員さんに複数の作品に関する作品解説を比較しながら紹介していただくことで、作品解説づくりのポイントを理解させる。</p> <p>○後の作品解説づくりで参考にできるように、作品解説に必要なポイントについて明確にさせる。</p> <p>○対象とする人の年齢や作品の特徴や自分が伝えたいと思ったことなどをあらかじめ明確にしておけるようなワークシートを用意する。</p> <p>○対象とする人の年齢によって書き出しの工夫をしたり、使用する言葉を工夫したりして伝えたいことが相手に伝わるように書けているか、机間指導を行う。</p> <p>○作品解説づくりの学習を生かせるように、自分の作品と友達の作品の2種類の作品解説を作らせる。</p> <p>○友達の人柄まで意識した作品解説が書けるように、作品づくりの過程を見ている友達の作品解説が書けるようにペアを設定する。</p>
振り返り	○美術館に展示していただいた作品解説に対するコメントを読み、学習の振り返りをする。	○一般の方からのコメントをいただけるように、展示していただいた作品解説にコメントを貼ることができるような付箋を用意する。

# 作品解説づくりに挑戦しよう

名前（ ）

☆ 3つの作品解説を比べて気づいたことを書こう。

マックス・バックマン《ヤールマルクト》 1921年 紙・インク・ドライポイント・版画集



サーカスや劇場、カーニバルなどに魅了されたバックマンは、それらを題材に、第一次世界大戦後のドイツに起こった出来事や、人々の関わりを寓話的に描きました。ねじれた空間を、人や物で埋め尽くすような描き方をバックマンはしばしば行いますが、こうした手法も相まって、画面には緊張感が生み出されています。

小林千古《ミルク・メイド》 1897年 油彩・画布



ミルク・メイドとは乳搾り専門の労働者です。細部を省略して描いたことで、描かれた人物の生命力が一層強調されているように感じます。荒れ地を黙々と歩くイメージの中に、決して楽ではない自らの人生が重なって見えたのでしょうか。画面からは、自分の選んだ道を歩き続けるんだという千古の声が聞こえるような気がします。

インド、グジャラート《藍地人物文更紗》 15-16世紀 木綿、手描媒染防染



何人いる？！

長い画面に、躍動的な姿を見せる女性が踊っています。通称「ダンシング・レディ」。大きな目が飛び出しているのは、ジャイナ教の絵画の特徴と共通しています。

# 作品解説づくりに挑戦しよう

名前（ ）

☆ お気に入りの作品の作品解説を書いてみよう。

- どんな人に読んでもらう？（ ）
- 作品の特徴や自分が伝えたいと思ったこと。

題名

作者

## 題材名「ミニ美術展を開いてギャラリートークをしよう～作家研究を通して～」

松本裕子

対象学年：中学校 2 年生（実践：広島大学附属三原中学校）

対象作品名：生徒個々の選択による（作家名：複数）

### 1 題材のねらい

本題材では、生徒自らが選んだ美術作家に関する調査研究や、作家のスタイルを活用した自らの作品制作とミニ美術展を企画することを通して、深く鑑賞する能力を高めることを目的とする。ミニ美術展を企画するに際しては、前年度、広島県立美術館学芸員を講師に招き、学芸員の基本的な仕事や展示会企画のポイントを学んで取り組んだグループ展の経験を生かすようにする。ミニ美術展では、美術作品（広島県立美術館所蔵作品を含む）の複製品、生徒の作品、調査研究のレポートを展示し、小学生に対してギャラリートークを行うことを通して、プレゼンテーション能力を身に付けさせる。

### 2 学習指導計画（全 10 時間）

第一次 前年度グループで開催した企画展の振り返りと今回の展覧会の内容の構想・・・1時間

第二次 作家研究（個人で調査しワークシートにまとめる）・・・2時間

第三次 作家研究に基づいた「〇〇スタイル」の小作品の制作・・・4時間

第四次 展覧会及びギャラリートークの準備・実施・振り返り・・・3時間（本時2/3）

### 3 評価の観点

- ・美術館の社会的機能や美術館における展示の目的と方法について理解している。（知識・技能）
- ・作家研究をベースに自らの作品を工夫して表現するとともに、鑑賞者のニーズに合ったミニ美術展を企画・運営できる。（思考力・判断力・表現力）
- ・ミニ美術展の企画・運営を通して、主体的に美術鑑賞を深めることに取り組んでいる。（学びに向かう力）

### 4 他教科等の学習とのつながり

〔国語科とのつながり〕  
国語科の教員を美術の授業に招き、ミニ美術展でのギャラリートークに向け、国語での既習事項を踏まえた相手意識に立ったプレゼンテーションの技能を習得している。

〔幼稚園・小学校とのつながり〕  
小学校・幼稚園にポスターを掲示して展覧会に招待したり、4年生の図画工作科と連携してギャラリートークを開催したりして、作品・美術作家の魅力や、自分たちの発想を楽しんでもらえるよう、対話を工夫している。

### 5 美術の専門分野に核心的で重要なアイデアやプロセス

美術館では、鑑賞者のニーズや調査研究を踏まえて、展示テーマが設定され、作品の選択、テキストの作成、展示レイアウトの工夫がなされる。

## 6 本時の目標

作家研究で見つけた作風や自分の作品の制作意図について、相手が興味を持ち、理解できるよう反応を見ながら工夫して説明し、相手の感想を引き出すことができる。

## 7 準備物

ワークシート、解説シート、自己評価表

	子どもの活動	教師の支援・指導・評価のポイント
導入	<p>(1) ギャラリートークの目的の説明を聞く。            ・交流の目的を捉え、自分の目標を持つ。</p>  <p>(2) 教室に設置された4つのミニ美術展に移動する。</p>	<p>(1) 事前指導により、美術係にギャラリートークの運営を任せ、主体的に学習に取り組ませる。</p> <p>・これまでの作家研究や作品制作の取り組みや作品の魅力の一端を紹介する等を通して、4年生に興味を持たせる。</p>
展開	<p>(3) 学習課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">           作家研究や自分の作品について、4年生の心に響くように工夫して説明し、感想を引き出す。         </div> <p>(4) 4年生を相手にミニ美術展でギャラリートークをする。            ・4年生に伝えたいことと、自分の眼でよく見て味わってもらいたいことのポイントを整理して対話を進める。ギャラリートークの司会者以外が記録メモを取る。</p> 	<p>(3) 本時の学習目標と活動内容を全員が確認できるようにする。</p> <p>・お互いの積極的な対話により鑑賞が深まることを確認する。</p> <p>(4) ギャラリートークによる交流方法を確認する。            ・4年生からの作品に対する質問を受け止め、それを中心にした説明や対話を行う。</p> <p>・事前に4年生に伝えたいことや気づかせたいことを整理しておき、ポイントを押さえながら、4年生に説明できるようにする。            ・4年生には、自分の気づきや感想を理由をもって積極的に伝えるよう促す。</p>
	<p>(5) 振り返りをする。            ・ギャラリートークの感想を伝え合う。            ・美術作品や生徒作品について、交流を通して生まれた新しい気づきについて確認し合う。</p>	<p>(5) 美術係の司会で振り返りをさせる。            ・交流を通して、目標に対する成果や課題を認識させる。            ・授業後に、4年生の反応や感想を通して考えたことを振り返りに書くようにする。</p>
振り返り		



## 学芸員の仕事と美術館

1

美術館の学芸員って？

美術と美術品の専門家です。

2

学芸員は、

美術作品を美術館に集めたり(収集)、  
美術品が長く残るようにしたり(保存修復)、  
美術品について研究したり(調査研究)、  
美術品を美術館で展示したり(展示)、  
美術について説明をしたり(教育普及)、  
新聞や雑誌に記事を書いたり(執筆)、  
いろんなことをしています。

3



環境検査(浮遊物)

4



環境検査(害虫)

5



会場設営:タイトルボード設置

6



会場設営:小部屋作成 展示会ごとに印象的な空間を作る

7



地震対策(テグス)

8



地震対策(免震台 めんしんだい)

9



作品の展示作業

10



スポットライト

11



活性白土(商品名アートソープ)

12



照度計(ルクス計)

13



講演会

14



ギャラリートーク 展示室内での解説

15



ギャラリートーク 展示室内での解説  
友の会ガイド研修  
毎日14時～(日曜祝日は11時～)無料ガイド

16



手で見る展覧会 年に1回開催

17



ワークシート

18



公民館での出張講座

19



広島市小学校での出張講座

20

みなさんの見えないところで働く  
たくさんの方が美術館を作っています。  
今日、紹介しきれなかった  
もっともっとたくさんの方で  
美術館は成り立っています。  
そして、あなたも美術館を支えるひとり。

21

## 美術館訪問のマナー

- 美術館では、作品には触れないようにお願いします。皮膚の油や塩分や酸は美術作品の傷みのもとになります。
- 美術作品、壁、踏み台、ガラスケースからは、十分な距離を取ってください。
- 走らないでください。
- 他の美術館訪問者を尊重して、小声で話しましょう。
- 携帯電話は、マナーモードにするか、切っておきましょう。
- 美術館は広い場所ですので、自分たちのグループから離れないようにしましょう。
- ボールペンや万年筆など、インクを使う用具は使えません。
- 美術館では、写真撮影の規制があります。カメラを持ってくる前に、美術館に連絡をお取りください。

# 美術館 KWL 表

名前: \_\_\_\_\_

<b>美術館 訪問前</b>	美術について <b>知っている (What I know)</b> こと
<b>美術館 訪問後</b>	美術について <b>知りたい (What I want to know)</b> こと
	美術について <b>新しく学んだ (What I learned)</b> こと

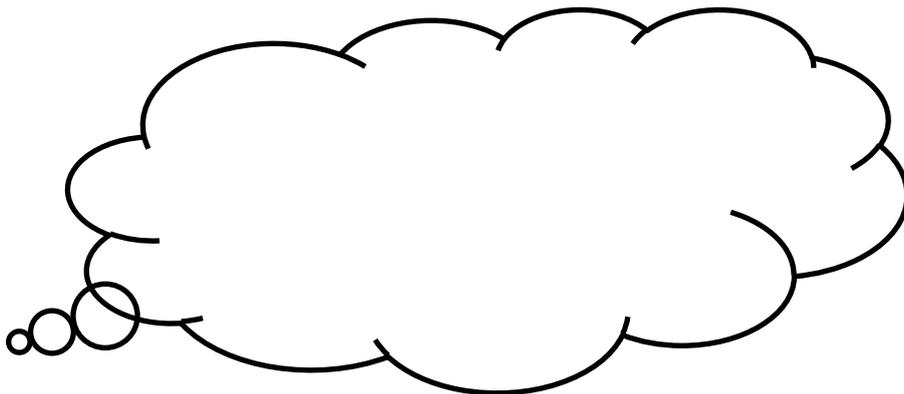
## ☆わたしを探して☆

名前【】

- ◎ 写真は、この美術館にある作品の一部です。どこに隠れているかな？  
その生き物はどんなことを思っているか、作品全体を見て吹き出しに書いてみよう。

### 【作品①】

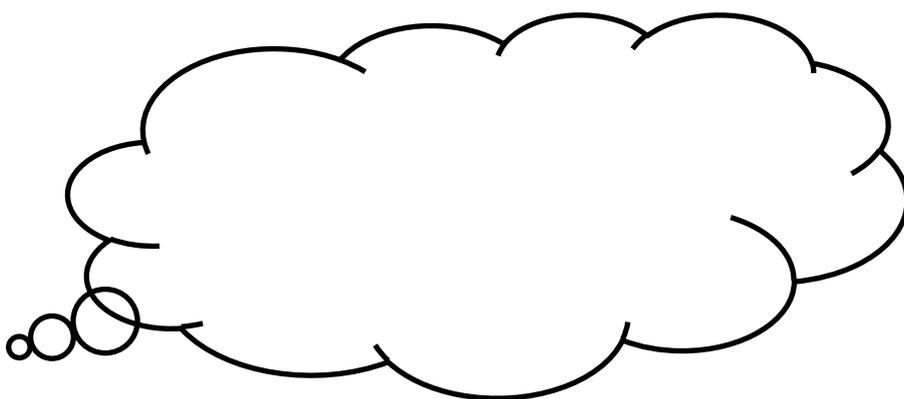
ここに、作品の一部のカラーコピーを貼ります。



作品名

### 【作品②】

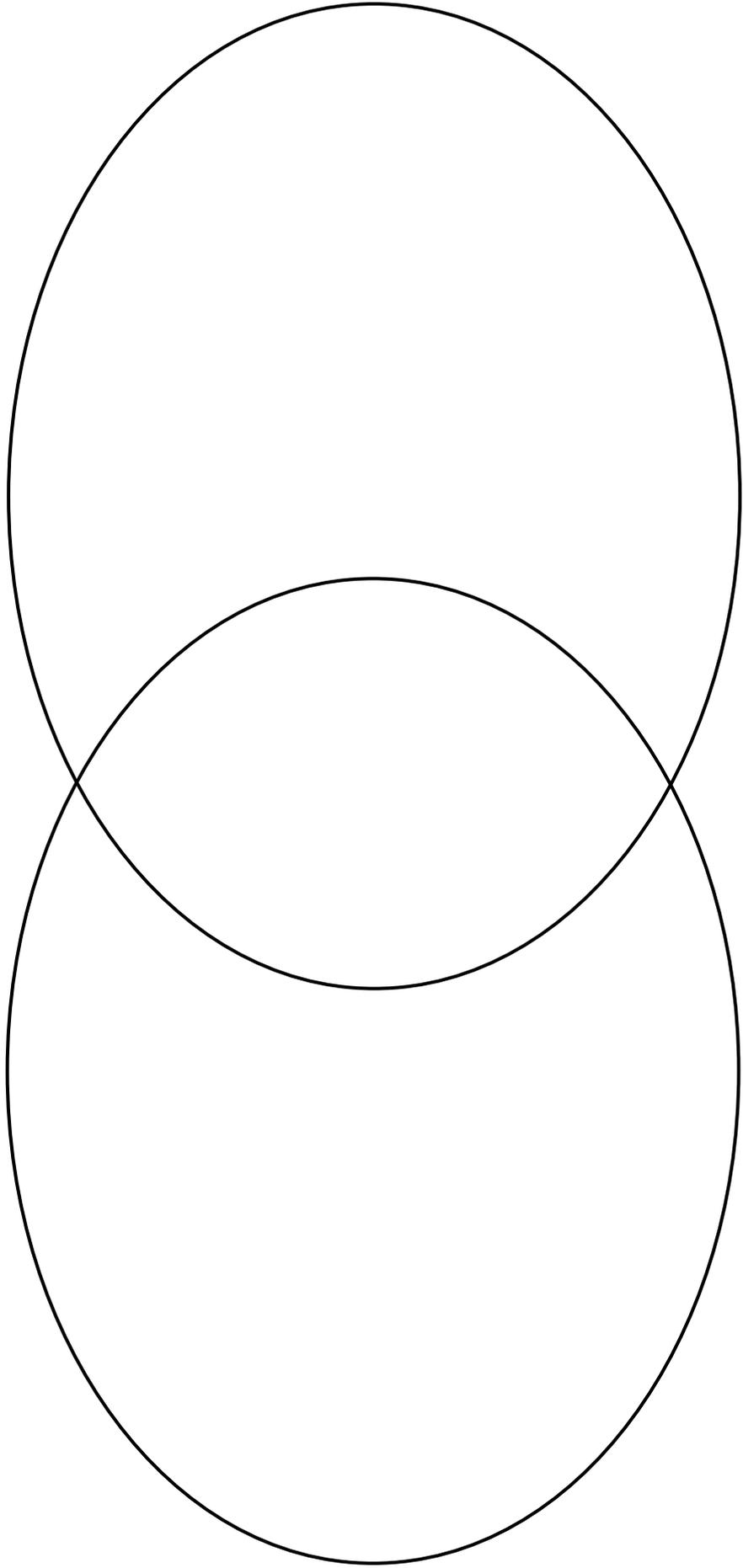
ここに、作品の一部のカラーコピーを貼ります。



作品名

# くらべてみよう

名前： \_\_\_\_\_



作品名

作品名

# アートでポエム

名前 ( )

お気に入りの作品を見つけよう。

作品名 \_\_\_\_\_ 作家名 \_\_\_\_\_

発見ボックス：作品から何が発見できますか？

感情ボックス：作品からどんなことを感じますか？

発見ボックスの言葉から、1行目をつくってみよう。

感情ボックスの言葉から、2行目をつくってみよう。

発見と感じたことをつなげて、自分のイメージで3行目をつくってみよう。

1. \_\_\_\_\_

2. \_\_\_\_\_

3. \_\_\_\_\_

# イマジネーションの世界

名前： \_\_\_\_\_

作品からストーリーをつくろう！

ストーリーの題

[ \_\_\_\_\_ ]

登場人物

出来事  
(何が起きているのか)

次の出来事  
(次に何が起きるのか)

## わたしを紹介してください

名前： \_\_\_\_\_

作品に描かれている人や動物などを  
一つ選んで、ここに描いてみよう

わたしの名前は \_\_\_\_\_

わたしの色や形などの特徴は \_\_\_\_\_

作家がわたしを描くことを決めた理由は、 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

わたしの性格や特徴を表すために、作家は、 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_の工夫をしました。

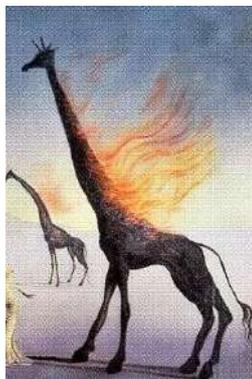
わたしは作家の \_\_\_\_\_ の

描き方が好きです。

わたしは作家にもっと \_\_\_\_\_

してほしいと思います。

# 動物たちをさがそう ビンゴゲーム



{ }



{ }



{ }



{ }



{ }



{ }



{ }



{ }



{ }

\*各作品は、美術館に常時展示されているわけではありません。展示の有無については、美術館にお問い合わせください。

各作品の全図と基本情報

# 動物たちをさがそう ビンゴゲーム



サルバドール・ダリ  
《ヴィーナスの夢》1939年  
広島県立美術館蔵



山路商  
《犬とかたつむり》1937年  
広島県立美術館蔵



和高節二  
《秋日和》1938年  
広島県立美術館蔵



和高節二  
《仔牛誕生》1970年  
広島県立美術館蔵



岡岷山  
《仏法僧図》1766年  
広島県立美術館蔵



児玉希望  
《黎明》1934年  
広島県立美術館蔵



塩出英雄  
《双鳩》1936年  
広島県立美術館蔵



奥田元宋  
《柳鷺》1940年  
広島県立美術館蔵



《伊万里柿右衛門様式色絵馬》  
17世紀後半  
広島県立美術館蔵

\*各作品は、美術館に常時展示されているわけではありません。展示の有無については、美術館にお問い合わせください。



## 学校と美術館との連携による美術鑑賞学習の開発事業

### 協力者

元・広島市立牛田小学校 重充雅美

広島市立牛田小学校 福永佳栄

広島市立春日野小学校 三京真理 山口裕司

環太平洋大学（元・広島大学附属小学校） 中西紘士

福山市立神辺東中学校（元広島大学附属三原中学校） 松本裕子

広島大学教育学部・初等教育教員養成コース 2018年度図画工作科ゼミ生一同

広島大学大学院教育学研究科 総括 中村和世

広島県立美術館 授業担当 福田浩子 藤崎綾 神内有理 隅川明宏

表紙・裏表紙デザイン 弘津かおる

### 「学校のための美術館活用マニュアル」

令和2年3月30日発行

編集・発行 広島大学大学院教育学研究科（広島県東広島市鏡山 1-1-1）

広島県立美術館（広島県広島市中区上幟町 2-22）

印刷 株式会社プリントパック

